音楽文化創造学科教授　田中　範康

1. 研究活動

作品録音			
フルートとピアノのための「Air」 2009年　改訂最終版 （作品録音）	2009. 10	名古屋芸大4号館ホール	2005年に東京で初演。後にザルツブルクの音楽祭 Aspekte Salzburg 他で再演されている。今回の録音のために、より高い完成度を目指し、特にフルートとピアノとの響きに対して、それが倍音特性にかなっているかを検証し、その分析結果を基に改訂をした。また、初演時、再演時の際に問題のあったフレーズの捉え方がより演奏者に理解しやすいよう様々な演奏指示を加筆した。今回の録音セッションでは、ドイツより招聘したトーンマイスター Eberhard Hinz 氏によって行われ、演奏は三上明子（Fl）、松山元氏（pf）による。なお、本学サウンドメディアコース学生の教育のために公開録音とした。本作品は2011年2月にCDがリリースされる。
「Dialogue I」 ―ピアノソロのための （作品録音）	2009. 10	名古屋芸大4号館ホール	本作品はピアノ・ソロによる Dialogue シリーズの第1曲目であり、2009年4月に書いた作品。冒頭に提示される音群を核にそれが様々に変容しながら全曲が構成されている。また、ピアノという楽器に備わっている豊富な倍音を生かした透明度の高いひびきを目指した作品である。ピアノ演奏は松山元氏。
「Dialogue Ⅱ」 ―ピアノソロのための （作品録音）	2009. 10	名古屋芸大4号館ホール	本作品はピアノ・ソロによる Dialogue シリーズの第2曲目であり、2009年6月～7月にかけて書いた作品。冒頭の音列によって組まれたテーマを、対位法的な線と線との絡みの処理ににより、全曲が構成されている。ピアノ演奏は松山元氏。
「Dialogue Ⅲ」 ―ピアノソロのための （作品録音）	2009. 10	名古屋芸大4号館ホール	本作品はピアノ・ソロによる Dialogue シリーズの第3曲目であり、2009年8月に書いた作品。叙情的な作品を目指し、さ無調作品ではあるが、たての響きの中に、3和音の要素を内在させた倍音を豊富に含んだコードを多用した。ピアノ演奏は松山元氏。
「音の彫刻Ⅰ」 ―フルート　ヴィオラ チェロの為の― 2009年　改訂版 （作品録音）	2009. 12	Jesuschrist Kirche in Berlin	2008年に、「音の彫刻」シリーズとして書いたフルート、ヴィオラ、チェロのトリオ作品である。本作品はその1曲目であり東京オペラシティーで初演された。今回は録音のために各楽器の奏でる線同志のからみがよりクリアーになるように改訂をした。 12月の2日にわたって、「音の彫刻Ⅰ」の他、以下に記載した「音の彫刻Ⅱ」「音の彫刻Ⅲ」共、Berlin の Jesuschrist Kirche で録音を実施。演奏メンバーは3作品共、ベルリンフィルハーモニーメンバーである、Julia Gartemann（va）、David Riniker（Vc）さらにベルリンを中心に活躍している Yasuko Fuchs（Fl）の3名による演奏によるものである。 トーンマイスターは Eberhard Hinz 氏。本作品は2011年2月にCDがリリースされる。

「音の彫刻Ⅱ」 ―フルート　ヴァイオリン チェロの為の― 2009 年　改訂版（作品録音）	2009. 12. 19	Jesuschrist Kirche in Berlin	「音の彫刻」シリーズの 2 作品目。2009 年に東京オペラシティーで初演された結果に基づき、今回の録音のために改訂を加えた。改訂の主な内容は、響きの中に倍音関係がかもし出す音空間の広がりを求め、よりクリアーな音像を目指すことである。さらにそれぞれの楽器のもっているソノリティーを生かすことにも配慮した。本作品は 2011 年 2 月に CD がリリースされる。
「音の彫刻Ⅲ」 ―フルート　ヴァイオリン チェロの為の― 2009 年　改訂版 （作品録音）	2009. 12. 19	Jesuschrist Kirche in Berlin	「音の彫刻」シリーズの 3 作品目。2009 年に東京オペラシティーで初演された結果に基づき、この作品では今回の録音の為に、スルポンティチェロ、スルタストなどによる、弦楽器の音色の多様性を求めると共に、より躍動感を出す為に、細かな音の動きを変えた。これらの改訂を加えることで、初演時よりも立体的音響を得ることができた。本作品は 2011 年 2 月に CD がリリースされる。
「Twilight」 ―クラリネット　チェロ ピアノの為の― （作品録音）	2009. 12. 20	Jesuschrist Kirche in Berlin	2007 年にザルツブルクで初演された作品。その後、東京オペラシティーで日本初演がされた。冒頭の音群を核にして 3 種の楽器が対比、融合を繰り返しながら全曲が構成されている作品である。演奏メンバーは、ベルリンフィルハーモニーメンバーである、Wenchel Fuchs（Cl）、David Riniker（vc）、松山元（pf）の各氏の演奏によるものである。 録音は、トーンマイスター Eberhard Hinz 氏によって行われた。本作品は 2011 年 2 月に CD がリリースされる。
クラリネットとピアノの為の「Poem」 （作品録音）	2009. 12. 20	Jesuschrist Kirche in Berlin	2008 年に東京文化会館小ホールで初演された作品。全曲は 3 部分にわかれるが、それぞれの部分は、最初に提示される音群によって統一を図っている。演奏メンバーは、ベルリンフィルハーモニーメンバーである、Wenchel Fuchs（Cl）、松山元（pf）の各氏の演奏によるものである。録音は、トーンマイスター Eberhard Hinz 氏によって行われた。本作品は 2011 年 2 月に CD がリリースされる。
作品発表			
「Dialgue Ⅰ」 ―ピアノソロのための （演奏会初演）	2009. 11. 3	東京オペラシティー リサイタルホール 日本現代音楽協会主催 アンデパンダン展	作品内容、については「作品録音」の記載を参照。演奏者は松山元氏。
「Dialgue Ⅱ」 ―ピアノソロのための （演奏会初演）	2009. 11. 3	東京オペラシティー リサイタルホール 日本現代音楽協会主催 アンデパンダン展	作品内容、については「作品録音」の記載を参照。演奏者は松山元氏。
「Dialgue Ⅲ」 ―ピアノソロのための （演奏会初演）	2009. 11. 3	東京オペラシティー リサイタルホール 日本現代音楽協会主催 アンデパンダン展	作品内容、については「作品録音」の記載を参照。演奏者は松山元氏。

クラリネットとピアノの為の「Poem」 （再演）	2010. 12. 17	パリ　エコール・ノルマル　コルトーホール	作品内容、については「作品録音」の記載を参照。演奏者は Cl. 竹内雅一、Pf. 山田敏裕の両氏。
コンクール等審査員			
カワイ音楽コンクール 中部本選会	2009. 4	電気文化会館　イベントホール	審査　講評
2009 カワイドリマトーンコンクール地区本選会	2009. 4	電気文化会館　イベントホール	審査　講評
NHK 音楽コンクール	2009. 8	瀬戸市文化センター　文化ホール	審査　講評
ヤマハグレード試験 3, 4, 5, 級	2009. 4 ～2010. 3	ヤマハ各センター	審査

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）　大学院授業担当　■有　□無

授業科目　作曲法研究Ⅳ	
◆前期　◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
3 年次までに取得した様々な作曲技法の中から、学生自身の習熟度と本人の希望を中心に、学生と教員とが作品創作プログラムを時間をかけて徹底的に話し合う。それに基づき、1 年間に 2 曲程度の作品を完成させ、それらを実際の演奏を通して、譜面上と実際の音との相違点を中心に分析を行なわせる。	印象派から現代までの作品のスコアー、並びに CD などの音源。
授業科目　音楽制作研究 I	
◆前期　◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
本授業では、音楽を制作する上で重要なコードプログレッション並びに、1. 2. 3 部形式について学ばせる。また、非和声音について、かなり多くの時間を費やし、その理解度を高めることができた。これらを学んだ後、学習者個々の希望するスタイルの実践的なコードパターンを与え、それをベースに形式のはっきりした小作品を作らせる。また、後期の約半分の授業は、学生の選んだ詩に、音のコラージュを有機的に結合させる作品を創作させ、これをサラウンドによって表現させ、新しい音空間を体験させた。	楽式論、コードプログレッション関係テキスト。様々なスタイルの音楽作品の CD、必要に応じて作成したプリント。
授業科目　音楽制作実 I	
◆前期　◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要

本年は、コードプログレッションについて、その重要性を理解させることに主眼をおいた。このことで響きに対する感覚が鋭くなり、さらに作品の構成方法についても繰り返し説明することで、その重要性を一定程度の理解させることができた。	実践コードワーク他。様々なスタイルのCD、明確なコードプログレッションによる楽曲のスコアー。	
授業科目　音楽制作実Ⅱ		
◆前期　◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
1年間を通じて、卒業作品を視野に入れながら授業を実施する。音楽制実習Ⅰで学んだ内容に加え、より学生個々の個性と、音楽的スキルとのバランスを見極め、マンツーマンのレッスンで指導を行う。また、受講学生全員にオーケストラの作品にチャレンジさせ、このことは、学生の能力向上にかなりの効果を見る事ができた。	実践コードワーク他。様々なスタイルのCD、明確なコードプログレッションによる楽曲のスコアー。	
授業科目　対位法		
◆前期　◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
対位法が、単に机上の理論で終わることなく音楽作品の中で重要なポイントとなっている事をよく理解させるために、対位法のテクニック習得という授業内容に加え、音楽の起源から現代までの各時代の作品の中に内在している対位法の存在意義を学習者に伝えることに主眼をおいた。これらを学ばせることで、演奏面において、音楽をより立体的に構成する事の必要性を理解させることができた。	「対位法」ノエル・ギャロン著、対位法手法に関わる文献より抜粋したプリント。	

3. 学会等および社会における主な活動

日本現代音楽協会	2009. 4. 1～2010. 3. 31	会員
日ロ音楽協会	2009. 4. 1～2010. 3. 31	会員
日本音楽舞踊会議	2008. 4. 1～2009. 3. 31	賛助会員